



秩父の夜祭り 山波の音が聞こえる

文部省選定/教育映画祭優秀作品賞/日本映画ペンクラブ推薦

◎「秩父の夜祭り」讚

高橋秀雄

秩父はメカロポリス東京のオアシス。東京の人々は、ハイキングに、森林浴にと、よく秩父路を辿る。緑影に富んだ山々と谷川の清冽なせせらぎが、喧噪の中に住む人々に安らぎと憩いを与えてくれるからである。

足を踏み入れた秩父路では、名も知らぬ草花のかけにひっそりとたたずむ小さな野の石仏に出逢う。峠には小さな祠（たもと）が祀られていて、旅する人を迎えてくれる。それらはいずれも秩父の人々の信仰の結晶であり、生きてきたことへの証しでもあった。そして、いまなお秩父の人たちはその前で祭りを続けてきている。人々の平安を願って……。

そんな秩父の自然と生活と歴史をなймаせて織り出される映像はとても美しい。そして、それらはやがて秩父最大の祭りである「秩父夜祭」へと集約される。すさまじいまでの熱気とエネルギーを発散させる屋台の巡行をクライマックスとするこの夜祭りは、寒気厳しい秩父盆地を興奮のつぼと化する。

やがて祭りが果てる。土地の古老がつぶやく。「星の降るような、輝くこの夜、秩父神社の女神妙見様は、武甲山におわす男神と、一年に一回、お旅所のお花畑で相まみえるのだ。」

静謐（しづか）に戻って、秩父盆地の底に眠るのかのように連なる家主の上で、無数の星が輝きはじめる。秩父の一年が終り、新たな一年がはじまる夜である。

詩情に富んだ秩父を語る映画の誕生を心から喜ぶものである。

◎企画

(財)ポラ伝統文化振興財団

◎製作

(株)桜映画社

◎監修

文化庁主任文化財調査官
高橋秀雄

◎規格

16ミリ・カラー/34分

◎価格

16ミリ/210,000円(消費税別)

◎撮影協力

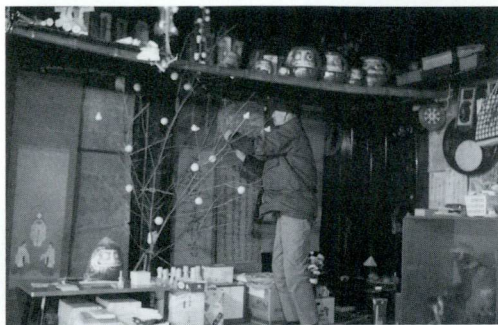
埼玉県秩父市
秩父市教育委員会
秩父観光協会
小鹿野町
吉田町
皆野町
秩父盆地の人びと



屋台ばやし

◎配給

日本紹介映画・ビデオコンクール金賞・外務大臣賞



繭玉の行事



屋台芝居



花まつり



藤の花の節供



虫送り



獅子舞い

●——製作意図

周囲に屏風を立てかけるように、高い山々に囲まれた秩父盆地。そこには、盆地独特の小宇宙ともいべき世界がある。また、その土地性ゆえに近代化の波と風化をまぬがれて、たくさんの祭りが今日まで残されてきた。これらの祭りは、古くは深い信仰に根ざしたもものから、江戸の文化を色濃く残したもものまで、どの祭りも盆地で暮らす人々の日々の平安と幸福を願う心のあらわれであった。なかでも、国の重要民俗文化財に指定されている夜祭りは、一年の行事のすべてを結集した秩父最大の祭りであり、盆地で暮らす人々の、年に一度のエネルギーの爆発ともいえる。この映画では、秩父盆地に残されているさまざまな祭りや行事をたずね、夜祭りを通して人々の生活に根づいた祭りの持つ意味を考え、そこに生きる民俗のこころを探ってみる。

●——内容

秩父の村々は、秩父盆地の深い鉢の内側のような斜面に点々とあるが、いまでも養蚕に関係の深い祭りや行事がたくさん残っている。人々が五穀の豊穰を願い、日々の平安と幸福を願った小正月の粥占いや繭玉の行事、山の子どもたちによる花まつりや藤の花の節供、夏の虫送りや、秋の獅子舞いなどが今も行われている。

江戸時代になって、大勢の巡礼たちがこの盆地に江戸の文化を持ち込んだが、江戸と秩父の関係をより深くしたのは、絹織物であった。

秩父市の背後にそびえる武甲山と深い関係にある秩父神社では、古くから、冬には養蚕の収穫を祝う、夜祭りが行われていた。江戸の寛文年間の頃、これに祭屋台が加わって大絹市の商いはますます盛んになったという。

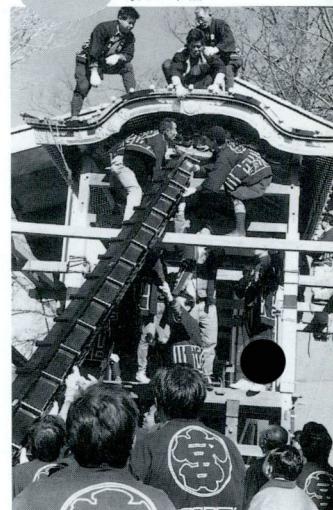
12月2日、3日に行われるこの「秩父夜祭」は、秩父盆地の最大の祭りである。特に、3日の夜の秩父神社からお旅所までの巡行は圧巻である。

引き綱のみみ合いのなかで、揃いの印半てんを着て屋台の綱をひく曳き子たち、勇壮にはやす四人の囃子や、屋台ばやしを交替で勤める囃方、拍子木を打って屋台の操作や巡行を合図する町内の行事たちなど、太鼓の力強いリズムとともに、夜祭りの興奮を一層高めていく。

秩父おろしの底冷えのするなか、この大地に響く屋台ばやしの音は、底知れぬ魅力があって、見る人をいつまでも飽かせない。

秩父の夜祭り
山波の音が聞こえる

祭りの準備



●スタッフ

製作=村山和雄

脚本・演出=村山正実

撮影=村山和雄

山屋恵司

応援撮影=西山東男

山崎堯也

音楽=長沢勝俊

照明=本橋俊男

編集=沼崎梅子

録音=福島音響

現像=IMAGICA

語り=長岡輝子

写真提供=清水武甲

●製作

株式会社 桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666